

6月開催のG20、 SDGsのここに注目！



SDGsを通じて、豊かで活力ある未来を創る



外務省地球規模課題審議官
鈴木秀生

2019年G20大阪サミット概要



1. 開催日程・場所: 6月28日(金)－6月29日(土) 於: 大阪市

2. 優先アジェンダ:

【総論】

自由貿易の推進やイノベーションを通じて世界経済の成長を牽引し、経済成長を目指すと同時に、格差への対処に取り組む。更にはSDGsを中心とした開発・地球規模課題への貢献も主導。

➡ 女性、若者、高齢者、障害者を含むあらゆる主体が活躍できる、自由で開かれた、包摂的かつ持続可能な社会を実現する。

【重点分野】

- ・WTO改革を含む自由貿易の推進。
- ・デジタル時代のルール作り(データ・ガバナンス), AI, IoTはじめデータが動かすSociety5.0の推進。
- ・イノベーションの活用等を通じた気候変動対策, 海洋プラスチックごみ対策の推進。
- ・持続的な成長の基盤として不可欠な、質高インフラ投資や国際保健の取組を推進。

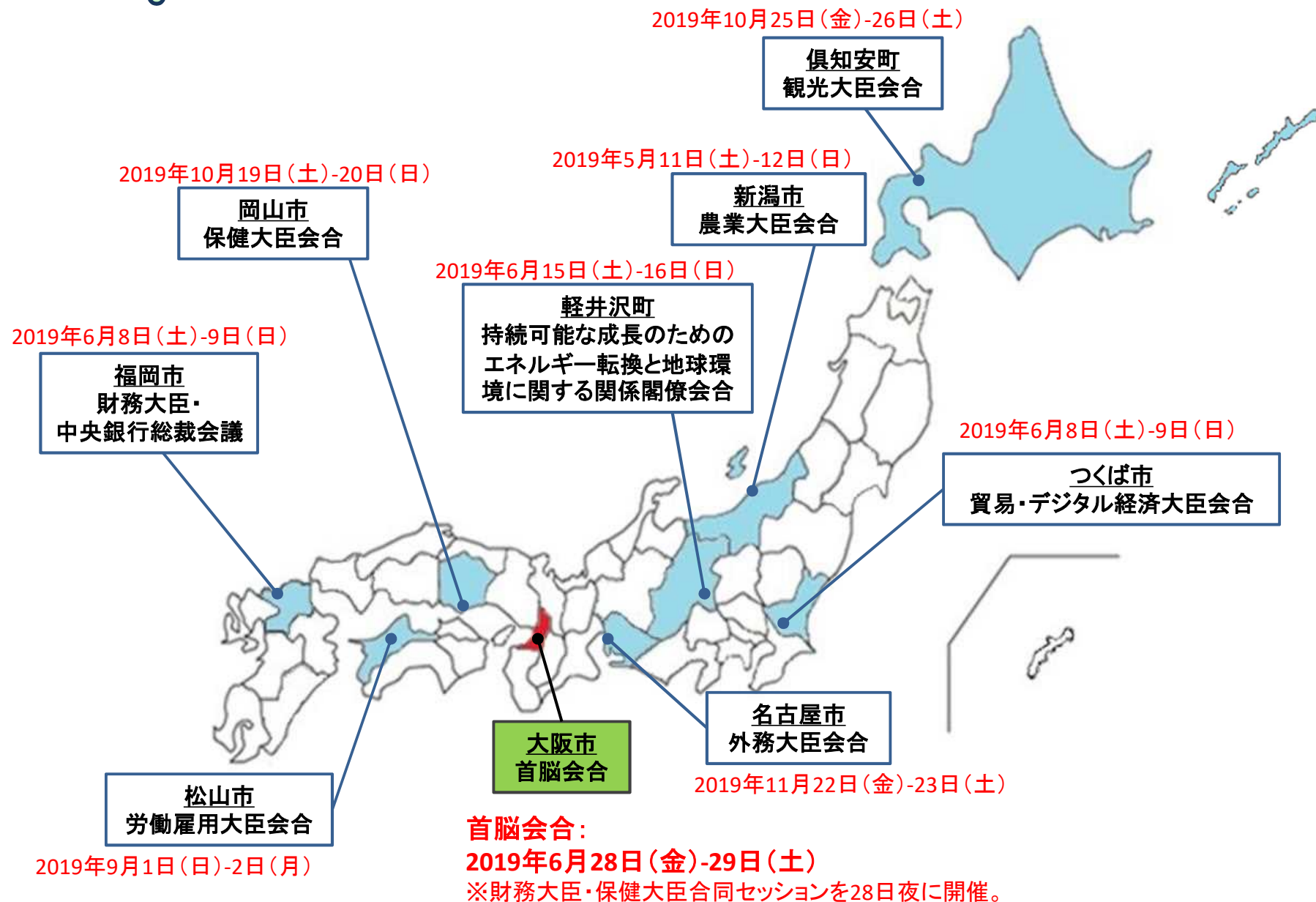
3. 出席国・国際機関: G20メンバーに加え、大阪サミットの優先議題や、これまでのG20への貢献も踏まえ、総合的に検討した結果、以下の国・国際機関を招待。

招待国【計8か国】 スペイン, シンガポール, タイ(ASEAN議長国), エジプト(AU議長国),
セネガル(NEPAD運営委員会議長国), チリ(APEC議長国), ベトナム, オランダ

(注: NEPAD: アフリカ開発のための新パートナーシップ)

国際機関【計9機関】 国連, 世界銀行, 国際通貨基金(IMF), 金融安定理事会(FSB),
世界貿易機関(WTO), 経済協力開発機構(OECD), 国際労働機関(ILO),
世界保健機関(WHO), アジア開発銀行(ADB)

2019年G20大阪サミット及び関係閣僚会合開催地



SDGs(持続可能な開発目標)

2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標(その下に、169のターゲット、232の指標が決められている)。特徴は、以下の5つ。



普遍性 先進国を含め、全ての国が行動

包摂性 人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」

参画型 全てのステークホルダーが役割を

統合性 社会・経済・環境に統合的に取り組む

透明性 定期的にフォローアップ

前身:ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals: MDGs)

- 2001年に国連で専門家間の議論を経て策定。2000年に採択された「国連ミレニアム宣言」と、1990年代の主要な国際会議で採択された国際開発目標を統合したもの。
- 発展途上国向けの開発目標として、2015年を期限とする8つの目標を設定。
(①貧困・飢餓、②初等教育、③女性、④乳幼児、⑤妊産婦、⑥疾病、⑦環境、⑧連帯)
 - ✓ MDGsは一定の成果を達成。一方で、未達成の課題も残された。
 - 極度の貧困半減(目標①)やHIV・マラリア対策(同⑥)等を達成。
 - × 乳幼児や妊産婦の死亡率削減(同④、⑤)は未達成。サブサハラアフリカ等で達成に遅れ

環境
(リオ+20)

人権

平和



『SDGsアクションプラン2019』のポイント

- 日本は、豊かで活力のある「**誰一人取り残さない**」社会を実現するため、一人ひとりの保護と能力強化に焦点を当てた「**人間の安全保障**」の理念に基づき、世界の「**国づくり**」と「**人づくり**」に貢献していく。
- 『SDGsアクションプラン2019』では、次の3本柱を中核とする日本の「SDGsモデル」に基づき、『SDGs実施指針』における8つの優先分野に総力を挙げて取り組むため、2019年におけるより具体化・拡大された政府の取組を盛り込んだ。
- 2019年の**G20サミット**、**TICAD7**、**初のSDGs首脳級会合**等に向けて、①国際社会の優先課題、②日本の経験・強み、③国内主要政策との連動を踏まえつつ、以下の分野において**国内実施・国際協力**の両面においてSDGsを推進。

I. SDGsと連動する「Society 5.0」の推進

中小企業におけるSDGsの取組強化

- 大企業や業界団体に加え、中小企業に対してもSDGsの取組を強化。
- 「SDGs経営／ESG投資研究会」の開催等を通じて、『**SDGs経営イニシアティブ**』を推進。TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)の提言を踏まえ、企業の取組を促進。
- 『中小企業ビジネス支援事業』を通じた**途上国におけるSDGsビジネスの支援**。

科学技術イノベーション(STI)の推進

- 統合イノベーション戦略推進会議下の「STI for SDGsタスクフォース」で、『**ロードマップ**』や**そのための「基本指針」**を策定。「**STI for SDGsプラットフォーム**」の立ち上げも準備。
- **STIフォーラム**やG20関連会合を通じ、国際社会における議論を促進。

II. SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり

SDGsを原動力とした地方創生

- **SDGs未来都市の選定**、**地方創生SDGs官民連携プラットフォーム**等を推進。
- **2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会**、**2025年大阪・関西万博**を通じたSDGsの推進。
- ICT等**先端技術を活用した地域の活性化**。
- **スマート農林水産業**の推進。

強靱かつ環境に優しい循環型社会の構築

- **国内外における防災の主流化**の推進。
- **質の高いインフラ**を通じて連結性を強化。
- **海洋プラスチックごみ対策**を含む持続可能な海洋環境の構築。
- **地域循環共生圏づくり**の推進。
- 日本の技術・経験を活かした**気候変動対策**への貢献。
- **省エネ・再エネ等**の推進。

III. SDGsの担い手として次世代・女性のエンパワーメント

次世代・女性のエンパワーメント

- 「**次世代のSDGs推進プラットフォーム**」を始動し、国内外における具体的な取組を推進。
- 3月に同時開催する**WAW! (国際女性会議)**と**W20 (G20エンゲージメント・グループ会合)**において女性活躍のための方途について議論。

教育・保健分野における取組

- 国内で、幼児教育から高等教育まであらゆる段階において「**質の高い教育**」を実施。
- G20関連会合やTICAD7を通じ、日本の経験を共有しつつ、**国際教育協力**や**UHC (ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ)**を推進。

展開とフォローアップ

- 日本のSDGsモデルを、**東南アジア・アフリカを重点地域**としつつ、国際社会に展開していく。
- 国際的な指標等に基づいて、これまでの取組をレビューし、**2019年後半に『SDGs実施指針』を改訂**。⁴



中小企業によるSDGs経営の推進

SDGs経営イニシアティブの推進（「SDGs経営／ESG投資研究会」等）

- (1) ESG投資・対話の促進
- (2) ベンチャー企業支援
- (3) Society5.0 海外展開プロジェクト組成支援

今年のG20も見据え、SDGs経営の国内外の良好事例の共通項や投資家がそれを評価する視座等を整理した成果物を取りまとめる。

公益社団法人日本青年会議所（JC）との連携

外務省とJCとの間で、「SDGs推進におけるタイアップ宣言」に署名。全国の中小企業や自治体におけるSDGs推進、次世代へのSDGs推進等の取組を、外務省とJCが協働して推進。

気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）による提言の普及・促進等

- ・気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）による提言の普及・促進。
- ・気候変動リスクに係る金融監督上の対応を検討する国際ネットワーク（NGFS）への参加。

ビジネスと人権に関する国別行動計画（NAP）策定

国連ビジネスと人権に関する指導原則等に基づき、新たなグローバル・スタンダードとなりつつある企業行動における人権の尊重に係る国別行動計画を策定し、我が国の**企業活動における人権の保護・促進**を推進し、民間企業の取組を後押ししながら、日本企業の競争力の確保及び向上を図っていく。

ジャパンSDGsアワード

ジャパンSDGsアワードを通じた、中小企業による優れた取組の見える化。第2回ジャパンSDGsアワードでは、15受賞団体のうち5団体が中小企業。



途上国のSDGs達成に貢献する企業の支援

中小企業・SDGsビジネス支援事業

途上国の課題解決型ビジネス（SDGsビジネス）調査、中小企業海外展開支援事業等を統合した「**中小企業・SDGsビジネス支援事業**」。途上国のSDGsへビジネスで貢献することを目指す企業の現地調査、事業化に向けた実証・普及活動を支援。

中小企業・SDGsビジネス支援事業			
	基礎調査	案件化調査	普及・実証・ビジネス化事業
概要	基礎情報の収集・分析（1年程度）	技術・製品・ノウハウ等の活用可能性を検討し、ビジネスモデルの策定（数か月～1年程度）	技術・製品やビジネスモデルの検証、普及活動を通じ、事業計画策定（1～2年程度）
対象	中小企業	中小企業	中小企業
支援額	SDGsビジネス支援型 （850,980万円）	SDGsビジネス支援型 （3,5千万円）	SDGsビジネス支援型 （1,1,5百万円）

中小企業等に対する海外展開支援

独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）が有する国内外のネットワーク等を活用し、海外企業とのパートナーシップ等を通じて、**我が国の中小企業・スタートアップ等の海外展開**を支援。





地方におけるSDGs推進

SDGs未来都市・自治体SDGsモデル事業

地方創生分野における日本の「SDGsモデル」の構築に向け、平成30年6月、「SDGs未来都市」として29都市を選定。特に先導的な取組を「自治体SDGsモデル事業」として10事業選定。引き続き「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」を選定。

多様なステークホルダー、特に民間企業と地方公共団体との連携を促進すべく、地方創生SDGs官民連携プラットフォームにおける取組を一層活発化。地域の社会的課題の解決に向けた民間企業の参画、SDGsを活用したビジネス連携の促進を図る。

<自治体によるSDGs達成に向けた取組>

- ・将来のビジョンづくり
- ・体制づくり
- ・各種計画への反映
- ・関係者（ステークホルダー）との連携
- ・情報発信と成果の共有
- ・ローカル指標の設定

政府一体となった支援体制の構築

成功モデルの国内における水平展開、
国外への情報発信

地方創生SDGs国際フォーラムの開催

2019年2月には、第1回地方創生SDGs国際フォーラムを開催し、グローバルSDGs都市ネットワーク形成を支援し、地方創生に向けた日本の「SDGsモデル」を国内外に発信する。

SDGsリーダーシップ都市連合への参加

2019年1月に米シンクタンク・ブルッキングス研究所が立ち上げる「SDGsリーダーシップ都市連合」に、SDGsを積極的に推進している地方自治体として、横浜市がニューヨーク、ロサンゼルス等とともに参加。

ICTスマートシティ整備の推進

近未来技術等の社会実装

AI, IoT, 自動運転, ドローン等の近未来技術の実装による地方創生を目指し、各種交付金、補助金等の支援、社会実装に向けた現地支援体制構築等、総合的な支援を行う。

ICTスマートシティ整備の推進

データ利活用型ICTスマートシティの構築を推進。地域課題を抱える自治体を中心に、先進的ソリューション開発についてのマッチングやグリーンフィールド（埋立地や工場移転跡地等）への導入を図る。

スマート農林水産業の推進

「スマート農業」の技術開発・実証

ロボット・AI・IoT等の先端技術を活用した「スマート農業」の全国展開の加速化に資する技術開発・実証等を推進。



（自動走行トラクタによる有人機・無人機の協調作業）

スマート林業構築推進

ICT等の活用による先進的な取組や、その普及展開を推進。

スマート水産業推進

効率的な操業データ等収集体制の整備やデータ連携基盤構築、漁場探索技術の開発等を支援



次世代・女性のエンパワメント

第5回国際女性会議 WAW!／W20

- 国際女性会議WAW!(World Assembly for Women)は、世界の様々な地域、国際機関から女性分野で活躍するトップリーダーが参加し、日本及び世界における女性のエンパワメント、女性の活躍促進のための取組について議論を行う会議で、2014年から開催。
- 第5回となる本年のWAW!は、女性の経済的活躍を目的として、G20に提言を行う民間主導のグループ「W20」(Women20)の会合と同時に開催(3月23日、24日。於：東京)。



女性の活躍推進

- ・女性活躍情報の「見える化」の徹底・活用の促進
- ・ワーク・ライフ・バランスの推進
- ・政策・方針決定過程への女性の参画拡大
- ・経済分野における女性リーダー育成
- ・組織トップの女性活躍へのコミットメント拡大
- ・男性の家事・育児等への参画促進
- ・地域における女性活躍の加速 等



若者・子供、女性に対する国際協力

子どもの学びの改善

世界銀行、GPE、UNICEF等と連携し、途上国における「学びの危機」に対し、特に初等教育段階の算数に重点を置いた各種支援を実施。

途上国における女性起業家支援

女性起業家資金イニシアティブを通じ、女性起業家や女性が運営する中小企業が直面する様々な障害の克服を支援。

「次世代のSDGs推進プラットフォーム」の立ち上げ

2030年以降にSDGs推進の主役となる次世代によるSDGsへの関与を深め、国際社会に対して、次世代のSDGs推進に関する日本の「SDGsモデル」を示すため、政府として、国際機関、経済界、市民社会など多様なステークホルダーの協力のもと、SDGs推進のための次世代プラットフォームを立ち上げ。

- 【活動例】・『次世代のSDGsに係る宣言』の取り纏め、発信
- ・WAW!等の機会に、他国の次世代と交流
 - ・ビジネス、市民社会、学生・生徒代表、分野別の4カテゴリからステアリング・コミティとして選抜





「ジャパンSDGsアワード」

SDGsの達成に向けて、優れた取組を行う企業・団体等を表彰するための「ジャパンSDGsアワード」の創設 (SDGs推進本部第3回会合で決定)。

- **表彰の対象**: SDGs達成に資する優れた国内外の取組を行っている, 日本に拠点のある企業・団体(企業, NPO・NGO, 地方自治体, 学術機関, 各種団体等)
- **表彰の内容**: 優れた1案件を, 総理大臣によるSDGs推進本部長表彰, その他の4案件を, 官房長官・外務大臣による副本部長表彰とする。その他, 特筆すべき功績があったと認められる企業・団体等について, 特別賞を付与する場合がある。

第2回「ジャパンSDGsアワード」の概要

247の企業・団体が応募。全関係省庁参加のもと, 「SDGs円卓会議」の構成員による「選考委員会」を開催。平成30年12月21日に第2回「ジャパンSDGsアワード」授賞式を開催。

【SDGs推進本部長(内閣総理大臣)表彰】

- ・ 株式会社日本フードエコロジーセンター〔企業〕

【SDGs推進副本部長(内閣官房長官)表彰】

- ・ 日本生活協同組合連合会〔生協〕
- ・ 鹿児島県大崎町〔自治体〕
- ・ 一般社団法人ラ・バルカグループ〔その他〕

【SDGs推進副本部長(外務大臣)表彰】

- ・ 株式会社LIXIL〔企業〕
- ・ 特定非営利活動法人エイズ孤児支援NGO・PLAS
〔NPO/NGO〕
- ・ 会宝産業株式会社〔企業〕



第2回「ジャパンSDGsアワード」授賞式

【特別賞「SDGsパートナーシップ賞」】

- ・ 株式会社虎屋本舗〔企業〕
- ・ 株式会社大川印刷〔企業〕
- ・ SUNSHOW GROUP〔企業〕
- ・ 株式会社滋賀銀行〔企業〕
- ・ 山陽女子中学校・高等学校地歴部〔教育機関〕
- ・ 株式会社ヤクルト本社〔企業〕
- ・ 産科婦人科館出張 佐藤病院〔その他〕
- ・ 株式会社フジテレビジョン〔企業〕

企業によるSDGsの取組

経済界におけるSDGsやESG投資の推進、ネットワーク強化



経団連による『企業行動憲章』
と『実行の手引き』の改訂

年金積立金管理運用独立法人
(GPIF)によるESG投資



証券業協会による
懇談会の設置



全国銀行協会におけるSDGs
／ESG推進検討部会の設置



生命保険協会によるSDGs
達成に向けた重点取組項目
の発表



Global Compact
Network Japan

グローバル・コンパクト・
ネットワーク・ジャパン
による企業啓発



SDGsの包括的な
イノベーション・
プラットフォーム



日本青年会議所による
「SDGs推進宣言」採択

企業の取組



サプライチェーンを通じた
SDGs推進(伊藤園)

途上国における感染症対策、
全社員によるSDGs推進
(住友化学)



食品廃棄物の有効活用による
ビジネスモデル構築
(日本フードエコロジーセンター)

トイレ整備を通じた途上国の
社会・衛生環境問題の解決
(LIXIL)



自動車リサイクルを通じた資源
循環型社会の構築
(会宝産業株式会社)

『SDGsアクションプラン2019』

- 「Connected Industries」推進
- ESG投資の推進
- 「SDGs経営推進イニシアティブ」をはじめ企業支援策 等

地方公共団体におけるSDGsの取組

県レベルでの取組

かながわプラゴミ ゼロ宣言(神奈川県)

プラスチック製ストローやレジ袋の利用廃止・回収等、市町村や企業、県民と共に推進。



	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8
I 安全・安心	◎	○	◎	○	○	○	○	○
II 健康・エネルギー		◎	○	○	○	◎	◎	○
III 経済成長		◎	○	○	○	○	○	○
IV 人づくり			◎	◎				
V 地球づくり	◎	◎	◎			◎	◎	◎

北海道SDGs推進ビジョンの策定 (北海道)

道内におけるSDGs主流化や多様な主体が連携・協働した取組を促進。

	目標9	目標10	目標11	目標12	目標13	目標14	目標15	目標16	目標17
I 安全・安心	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○
II 健康・エネルギー	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
III 経済成長	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
IV 人づくり		○	○	○	○	○	○	○	○
V 地球づくり	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

市・町レベルでの取組

国際技術協力 (福岡県北九州市)

深刻な大気汚染や水質汚濁等の公害を克服した経験を活かし、国際環境協力に貢献。



リサイクルモデルの国際展開 (鹿児島県大崎町)

27品目分別のリサイクル事業を実施。リサイクル率80%を達成し、平成18年以降、11年連続で資源リサイクル率日本一を記録。「大崎システム」として国際展開。

地域における 産官学連携等

白山市×金沢工大×ドコモ

SDGs達成に向けた情報通信技術(ICT)や5Gの活用を推進する連携協定を締結



下川町×吉本興業

「笑い」で町おこしを推進。下川町にてイベントやお笑いライブ開催の他、特産品のPRも支援。



SDGsの推進は、地方の魅力や強みを活かしながら、
地方創生、強靱で環境に優しいまちづくりを
実現するものとして、地方自治体の取組が活発化。

『SDGsアクションプラン2019』

- ・自治体SDGsモデル事業
- ・地方創生SDGsプラットフォーム
- ・先端技術を活用した地域活性化

市民社会・次世代によるSDGs取組

市民社会による SDGsの啓発・実施



100以上の市民団体が参画



市民団体によるSDGsの国内実施や国際協力



次世代(若者・子ども)の 意識向上や具体的行動の強化



カリキュラムを通じたSDGsの教育(小学校～大学)



青年会議所による
SDGs関連活動等



イベント・セミナー等
を通じた啓発

政府・企業・地方公共団体の取組と、
政界・市民社会の後押しや、次世代の育成により、
SDGs実施の機運の高まりへ。

『SDGsアクションプラン2019』

- ・女性・子供に関する国際協力
- ・UHC推進のための国際協力
- ・子供の安全や女性に対する暴力根絶の取組 等

SDGsの主流化に向けて

ピコ太郎 x SDGs



ピコ太郎氏による「PPAP」SDGsバージョン



ミス日本 x SDGs



ミス日本の活動を通じた女性の活躍推進, 「水の天使」「みどりの女神」「海の日」による環境保全の活動推進



ファッション雑誌 x SDGs



紗栄子 x SDGs



吉本興業 x SDGs



島ぜんぶでおーきな祭, PRムービー, スンプラリー, SDGsウォークなど

仏教 x SDGs



全日本仏教青年会による「仏教 x SDGs」シンポジウム開催

ハロキティ x SDGs



キティちゃんがYouTubeでSDGsを発信

エコプロ x SDGs



外務省もSDGsブースを初出展!

外務省SDGsツイッター



政府の最新の取組やSDGsの取組を発信中!
@SDGs_MOFA_JAPAN
で検索 🔍

Burberry Group PLC

BRBY:LN LONDON

バーバリーグループの株価の変動

1日 | 1月 | **1年** | 5年 | 期間

比較銘柄を追加



出展: Bloomberg L.P.

<https://www.bloomberg.co.jp/quote/BRBY:LN>



SDGs主要課題におけるG20議長国・日本のリーダーシップ



国際社会によるSDGsの取組を牽引しつつ、そのための科学技術イノベーション(STI for SDGs)の更なる活用を推進。

■ **強靱かつ環境に優しい「国づくり」のため、質の高いインフラ、防災、海洋プラスチックごみ対策、気候変動対策等**に貢献

質の高いインフラ

質の高いインフラ投資に関する国際スタンダードをアップグレード
(以下の諸点をハイライト)。

- ① 開放性、② 透明性
- ③ ライフサイクル・コストから見た経済性
- ④ 対象国の財政健全性等

防災

「仙台防災枠組2015-2030」の実施を主導。

- ① **防災の主流化**や「世界津波の日」の普及・啓発を推進
- ② 「**仙台防災協カイニシアティブ**」の成果を公表し、後継策を打ち出す

海洋プラスチックごみ

世界全体での海洋プラスチックごみ問題の解決を目指し、この問題に対する以下の実効的な取組を推進するためのイニシアティブを主導。

- ① **3Rや廃棄物処理**に係る制度構築及び**インフラ整備**への支援、民間投資や官民連携の推進
- ② **代替素材等**に関するイノベーション
- ③ **モニタリング手法**の策定等、**科学的知見の集積・共有**

気候変動・エネルギー

日本の技術・経験で、世界の経済成長と脱炭素化を牽引。

- ① 環境と成長の好循環に向け、**グリーン・ファイナンス**の活性化、**ビジネス主導の国際展開、イノベーションの促進**を図る。
- ② 日本の幅広い**低炭素・脱炭素技術**を提案し、エネルギー転換を推進。
- ③ **NDC(削減目標等)及び長期戦略の着実な実施に向け**、必要な施策・支援を議論し、課題を特定。必要な気候資金のあり方等を提示。
- ④ **適応策と強靱なインフラ整備**を統合的に推進。
- ⑤ **様々な主体の総力を結集**し、気候変動問題に取り組む。

■ **「人間の安全保障」に基づき、世界の「人づくり」のため、女性のエンパワーメント、保健、教育に貢献**

女性

「女性が輝く社会」を国内外で実現するため、3月のWAW!/W20も活用しつつ、以下の重要性を確認。

- ① **アフリカを含む途上国での女子教育**: 女性・女児の経済的・社会的エンパワーメントに向けた女子教育の推進
- ② **女子へのSTEM(科学、技術、工学及び数学)教育**: 女性が将来の職に備え、職業選択における平等な参画を実現する上で、STEM関連の訓練及び職業へのアクセスの確保・向上

保健

G7伊勢志摩サミットの成果にも立脚し、G20自身の課題解決と途上国への支援の両面から主導力を発揮。

- ① **UHCの達成**: 基礎的医療サービスの供給、国内予算の保健への配分向上等、保健システムの強化
- ② **高齢化への対応**: 健康長寿(Healthy Ageing)や認知症施策の推進
- ③ **健康危機への対応**: 健康危機時(主に感染症)における国際的な資金メカニズムや、薬剤耐性(AMR)への対応

教育

G20ブエノスアイレスサミットにおける議論を踏まえつつ、基礎教育に加え、中等教育以上や職業訓練等にも注力。

- ① **持続可能な成長に向けた質の高い教育**: 基礎学力の保障、学びの改善等
- ② **イノベーションを生む教育**: 産業、特にSTIを担う人材育成
- ③ **強靱で包摂的な未来をつくる教育**: 女性・障害者等への教育、紛争・災害下の教育支援

■ 日本のSDGsモデルの国際社会への共有・展開

- **アジアへ**: 重点地域アジアにおいて『日メコンSDGsイニシアティブ』の策定、アジア健康構想の推進、「日ASEAN STI for SDGs ブリッジングイニシアティブ」の立ち上げ等を実施。
- **アフリカへ**: TICAD7を通じ、アジェンダ2063及びSDGsの達成に向け、アフリカ諸国と協働。
- **世界の地方へ**: SDGsハイレベル政治フォーラムや国内におけるG20関連会合等の機会を通じ、地方自治体の「SDGsモデル」を国内外に発信。

「Society 5.0」の推進等によるSDGs達成
IoT・AI等の革新的技術を活用したSociety5.0と、途上国の社会課題解決に資する貿易投資の推進。

国際社会で「**地域循環共生圏**」づくり
地域の資源・人材を活用した持続可能な地域作りを総合的に支援。野心的な脱炭素社会の実現につなげ国内外に発信。

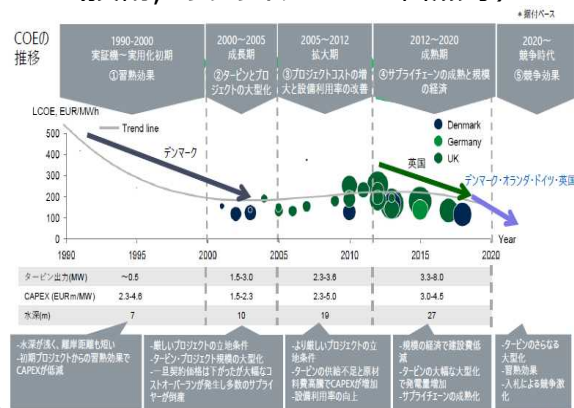
脱炭素化の鍵を握るイノベーションと外交政策

海外におけるイノベーション事例

ドイツでの大型風車と揚水発電の組み合わせ



欧州での風力発電の25年間の進化 (技術、サプライチェーンの習熟等)

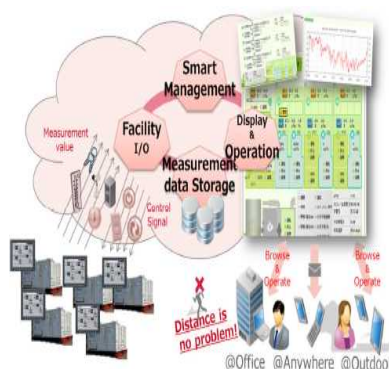


日本にも、有望な分野が多く存在。今後のイノベーションの進展により発展を期待。

- 省エネルギー：超軽量・耐熱構造材料、革新的生産プロセス
- 蓄エネルギー：水素等製造・貯蔵・利用、次世代蓄電池
- 創エネルギー：次世代太陽光発電・地熱発電
- エネルギーシステム総合技術：ICT活用によるデマンドレスポンス, AI, ビッグデータ, IoT等の活用
- システムを構成するコア技術：次世代パワエレ, 多目的超伝導

日本の海外における技術的貢献

豊田通商やインターネットイニシアティブ (I I J) が支援したラオス初の国営データセンター



九電工によるインドネシアでの分散型電源プロジェクト

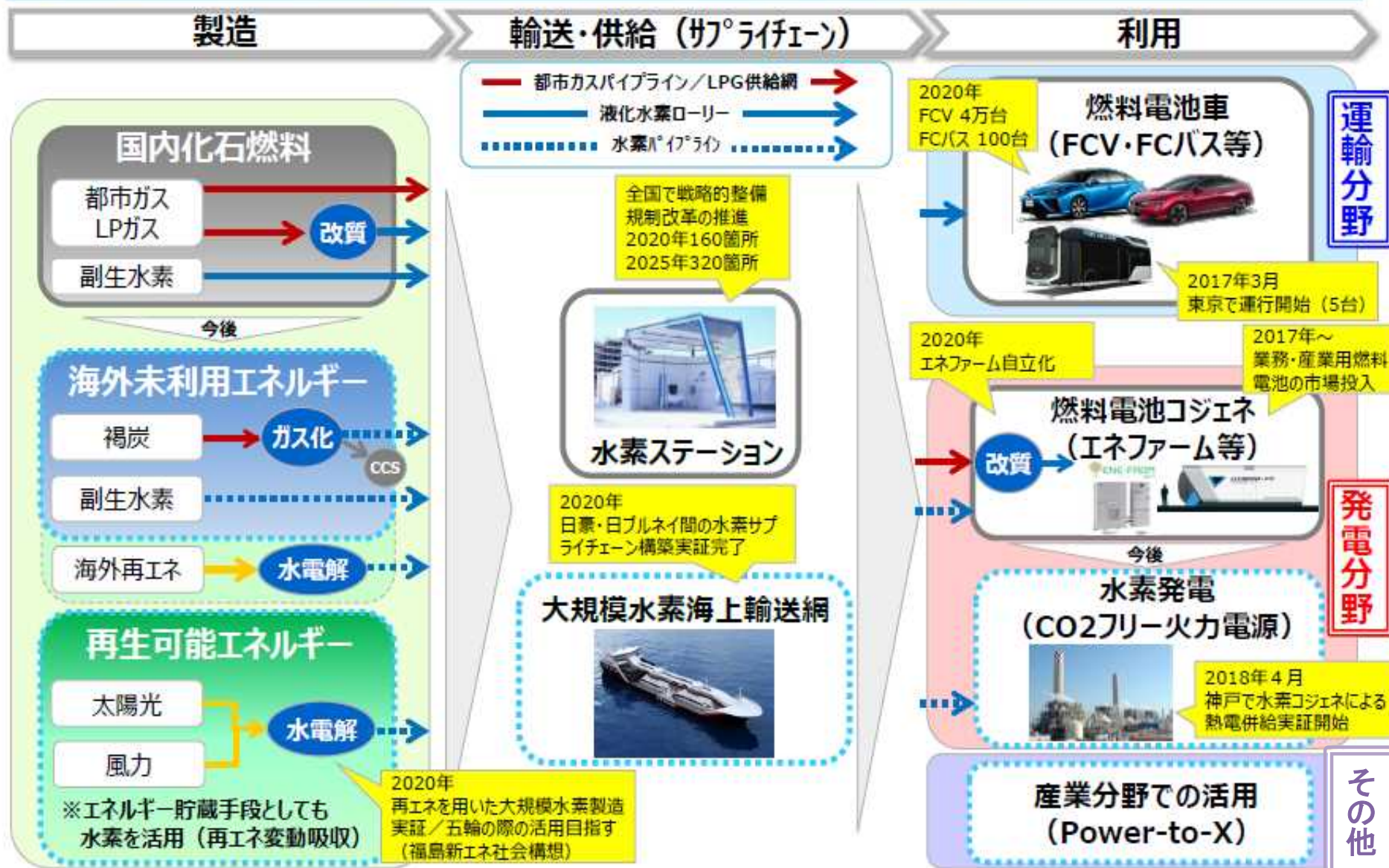


外交政策

日本発のイノベーション、日本型の脱炭素化モデルを世界に展開し、パリ協定の掲げる2.0℃目標達成に向けて貢献

水素社会の実現

- 足元では燃料電池自動車（FCV）、エネファーム等燃料電池を通じた水素利活用を拡大。
- 中長期的には、水素発電や国際的なサプライチェーンの構築等に向け取組を推進。



未来投資会議における「長期戦略」策定の総理指示

【総理指示（抜粋）】

- これまで温暖化対策と言えば、国が主導して義務的な対応を求めるものでした。しかし、2050年を視野に脱炭素化を牽引していくためには、こうしたやり方では対応できない。環境と成長の好循環をどんどん回転させ、ビジネス主導の技術革新を促す形へと、パラダイム転換が求められています。
- 第一に、従来型の規制でなく、情報開示・見える化を進めることで、グリーン・ファイナンスを活性化する。
- 第二に、途上国などでも、公的資金中心の支援から、民間ファイナンスによるビジネス主導に転換することで、地球規模の対策を推進する。
- 第三に、革新的なイノベーションに向かって、野心的な目標を掲げ、官も民も、さらには、日・米・欧、世界中の叢智を結集する。
- こうした方向性の下、パリ協定に基づく長期戦略策定に向け、金融界、経済界、学界など各界の有識者にお集まりいただき、これまでの常識にとらわれない新たなビジョン策定のため、有識者会議を設置するとともに、その下で、関係省庁は連携して検討作業を加速してください。



海洋プラスチックごみ問題

【海岸に押し寄せるプラスチックごみ】



【深海に達するプラスチックごみ】



【プラスチックごみの海洋生物への影響】¹⁹

何をしていくべきか

日本は、G20大阪サミット(来年6月)を見据え、
下記の官民の国際的なパートナーシップを主導

①適正な廃棄物処理及び「3R(リデュース, リユース, リサイクル)」を通じて、プラスチックごみの処理を改善

(例)



- ごみ収集システムの整備
- ごみ分別ルールを導入



- リサイクル施設
- 最終処分場
- 廃棄物発電所

②国際協力

途上国における、能力構築・
インフラ整備



③イノベーション

「3R」技術や代替素材の開発



④科学的基盤

流出源・量の把握等に関する
科学的知見の集積・共有



プラスチック資源循環戦略

- プラスチックの資源循環を総合的に推進するための戦略
- 中央環境審議会の小委員会にて検討を経た案につきパブコメを実施
- 来年6月の[G20大阪サミットまでに策定](#)することを目指す

◆ 基本原則：“**3R + Renewable**（持続可能な資源）”

◆ 重点戦略：（1）プラスチック資源循環，（2）海洋プラスチック対策，（3）国際展開，（4）基盤整備

◆ マイルストーン（目指すべき方向性）：

➤ リデュース

2030年までに，ワンウェイのプラスチック（容器 包装等）を累積で25%排出抑制する

➤ リユース・リサイクル

2025年までに，プラスチック製容器包装・製品のデザインを，技術的に分別容易かつリユース可能又はリサイクル可能なものとする（それが難しい場合にも，熱回収可能性を確実に担保する）

2030年までにプラスチック製容器包装の6割をリサイクル又はリユースし，かつ，2035年までにすべての使用済プラスチックを熱回収も含め100%有効利用する

➤ 再生利用・バイオマスプラスチック

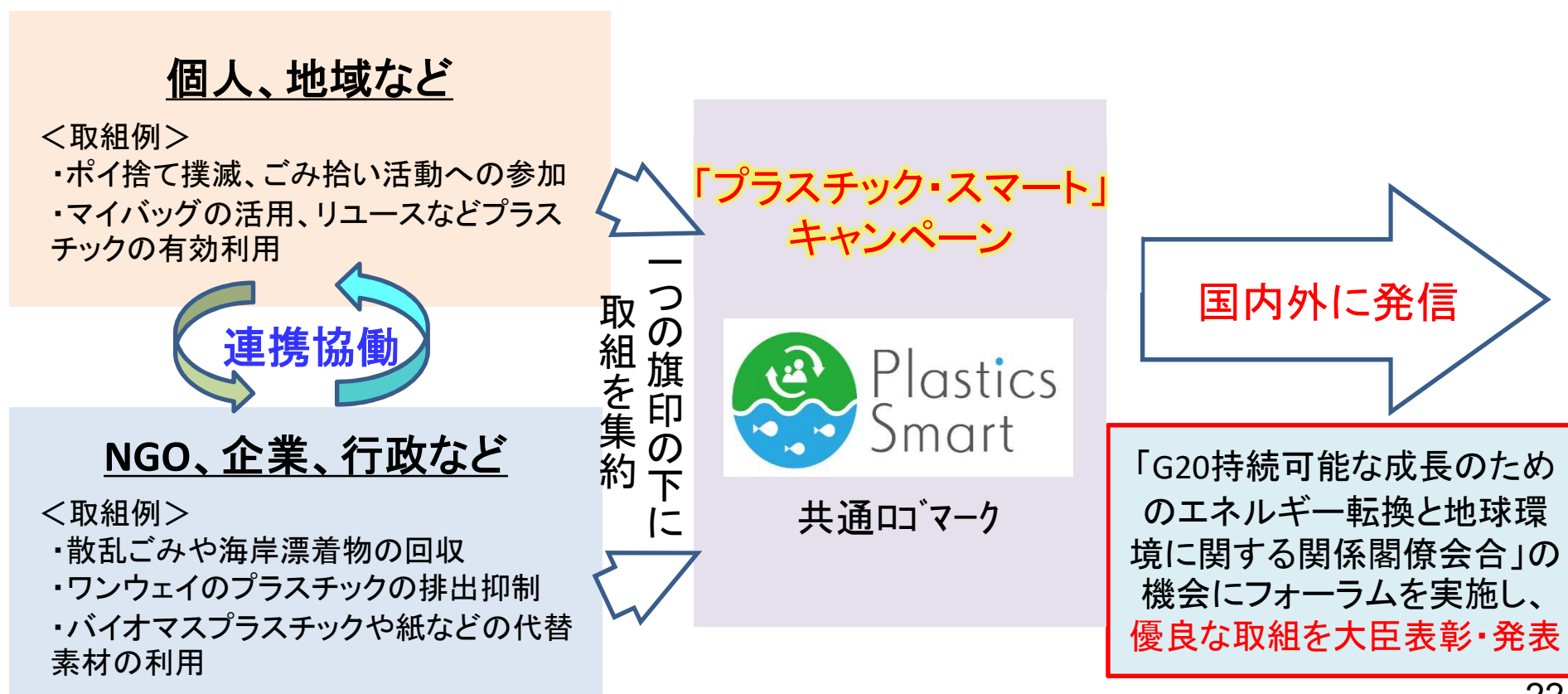
2030年までに，プラスチックの再生利用を倍増する

2030年までに，バイオマスプラスチックを最大限（約200万トン）導入する

「プラスチック・スマート -for Sustainable Ocean-」 キャンペーン

【目的】 海洋プラスチックごみ問題の解決に向けて、個人・NGO・企業・行政など幅広い主体が連携協働して取組を進めることを後押しする。

【内容】 一つの旗印の下に幅広い主体の取組を募集・集約し、ポイ捨て撲滅を徹底した上で、不必要なワンウェイのプラスチックの排出抑制や分別回収の徹底などの“プラスチックとの賢い付き合い方”を全国的に推進し、我が国の取組を国内外に発信する。



日本の民間企業の取組

- ◆ 海洋プラスチックごみ問題を解決するためには、消費者や民間企業の取組が重要。
- ◆ 日本企業も、海洋プラスチックごみ対策と持続可能な社会の実現に寄与。

素材開発

- 生分解性プラスチックの開発
- プラスチックを代替する紙製バリア素材の開発



容器利用

- 容器用プラスチックの使用量削減
- リサイクル・植物由来原料使用



小売・外食

- 買物袋持参運動, レジ袋無料配布中止, 店頭資源回収
- ペットボトル回収機の設置とリサイクル
- プラスチックストロー使用量削減



リサイクル

- 使用済プラスチックのケミカル・リサイクル
- 衣料品のケミカル・リサイクル





今後の政府の取組とその発信・展開

2019年
前半

『SDGsアクションプラン2019』に基づいて
政府の取組を実施しつつ、更に具体化・拡充し、
日本の「SDGsモデル」を構築

2019年
後半

『SDGs実施指針』改定

2020年
以降

2030年までにSDGsを達成

日本のSDGsモデルを世界に発信

G20大阪サミット
(6月)

国連ハイレベル政治フォーラム
(閣僚級, 7月, ニューヨーク)

TICAD7
(8月)

国連ハイレベル政治フォーラム
(首脳級, 9月, ニューヨーク)

2020年東京オリンピック
・パラリンピック大会

2025年大阪・関西万博の開催



これら取組・発信を通じて……

- ◆一層の普及・啓発活動を通じて、全国津々浦々までSDGsの認知度を上げる。
- ◆SDGsを具体的な行動に移す企業・地方を、政府の各種ツールを活用して後押し。
- ◆官民のベストプラクティスを通じて得られたSDGs推進の理念・手法・技術を、国内外に積極展開。

SDGsが創出する市場・雇用を取り込みつつ、国内外のSDGsを同時に達成し、
日本経済の持続的な成長につなげていく。